

住民に対する検診の考え方（案）

1 住民に対する検診の意義

一律に誰にでも石綿に関する検診を行うことは適切ではない。検診を行うに当たっては、発見率、延命効果、費用対効果、メリットとデメリットの比較などを検討の上、有効性についての判断が必要である。

2 石綿に関する検診の有効性について

- 1) 石綿の健康影響に関する胸部エックス線検査等についてのエビデンスは現時点ではない。
- 2) 石綿による環境汚染のリスクが高いと考えられる地域について、調査研究としての問診や検査を行う。
- 3) 調査研究を行う対象は労働者の家族や、住民に中皮腫等が出ている特定の地域に一定期間以上居住した住民等とし、そのほか取扱い石綿の種類や量など、地域ごとの実情を考慮する。
- 4) 調査研究に当たっては、対照地域も選定し、比較を行う。

3 具体的な調査研究の進め方

- 1) 石綿による環境汚染が疑われる地域を選定する。
地域を選定する根拠としては、以下のものが考えられる。
 - ・ アスベスト事業場が多数存在している地域
 - ・ 労災認定者が多数出ている事業場の周辺地域
 - ・ 住民等に中皮腫の発症が見られる地域
 - ・ その他、地域の個別事情
- 2) フローチャートにそって調査研究を実施する。
- 3) 専門家グループが胸部エックス線写真等を読影することにより、読影の質を担保する。
- 4) 調査研究の結果について、「検診」としての有効性等をふくめ、科学的な評価を行う。

4 他の検診結果の活用

自治体において撮影された肺がん検診等の胸部エックス線写真について、胸膜肥厚等のアスベストの影響を評価する。

5 石綿関連疾患を診断できる医師の育成

医師の診断能力、読影能力等の質を確保するために、研修や講習を実施する。